

第277回
今月は

ほうさくClub!

★これがハクサイのスケジュールだよ。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春作	種まき	定植	収穫								
				秋作	種まき	定植	収穫				

●施肥基準 (1㎡あたり・一例)
 ■苦土石灰100g ■堆肥3kg
 ■BB552号60g ■BB追肥N30号15g×2回

⚠ 文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。

追肥・土寄せ

大きな葉が20枚くらい育つと葉が巻いてくるよ。10月までにしっかり育てることが大事だよ。

本葉が8〜9枚の頃と葉が立ち上がる頃に追肥をして土寄せしておきます。外葉が大きく育つほど大きな球になります。

秋作では強い日差しで苗の葉が焼けてしまうことがあります。寒冷紗でトンネルをしておくと良いですよ。

ハクサイの栽培で気を付けなければならぬのが「花芽分化」です。ハクサイは結球するまでの期間に寒さに当たると、大きく育つよりも種を残す方に切り替えてしまう習性があります。春作では早い時期から植えないこと、秋作では遅い時期に植えないことが大事です。秋作で10月下旬ごろまでに結球が始まっていれば順調ですよ。

防除

比較的害虫が少ない春作でも最近是被害に遭います。多様な害虫が存在する季節に植える秋作は、特に害虫対策が必須です。播種時や定植時に使える、ネキリムシやアブラムシ対策用の粒剤タイプの殺虫剤があります。さらにできるだけ早く防虫ネットでトンネルをしておきましょう。こまめにネット内部を確認し、害虫を発見したらすぐに対処します。虫を確認できなくても、何度か使えるガヤチョウの幼虫対策のBT剤やアブラムシ対策のデンボンや油が原料の殺虫剤(左写真参照)を定期的に散布しておきましょう。葉が結球するまでにしっかり守ることが立派なハクサイを作るコツです。

何度でも使える殺虫剤が便利です。

収穫

ハクサイの頭を押さえてみて、硬くしまった感覚があったら収穫です。外葉で包んで縛れば多少の寒さには耐えますが、上田地域はそれでは本来凍みてしまう土地です。本格的な寒さが来る前に収穫して、新聞紙にくるんで凍みない涼しい場所に立てて保存しましょう。

いらない外葉を押し下げてからハクサイを少し斜めに押し倒すと、包丁が入りやすくなって収穫しやすいよ。

畑の準備・定植・間引き

定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料を撒いて耕します。畝は幅60cm、高さ5〜10cm程度に作ります。株間40〜50cmに穴をあけ、瓶の底などでくぼみを作り、5〜6粒播種します。土を5mmほどかぶせてかるく押さえます。

育苗する場合はポットに育苗用培土を入れ、直まきと同じように播種します。芽が出るまでは乾かないように注意。

もともとハクサイは白い菜と書くように白い葉の野菜です。現在は「黄芯系」と呼ばれる、内側の葉が黄色い品種が主流です。これは、ハクサイを大量に漬物に使っていた大家族時代から、使い切れるサイズにカットされたハクサイが売れる核家族の時代が変わったことと関係があります。断面に現れる黄色い葉が、いかにも甘そう、おいしそうに見える、というわけです。もちろん白いハクサイもおいしいのですが、すっかり黄芯系のハクサイに人気を奪われました。また、オレンジ色や紫色のハクサイもあります。紫色のハクサイはチクチクせず柔らかな葉なので、サラダや浅漬けにすると美しくかつおいしく食べられます。しかし鍋ものになると紫色が溶けだして毒々しい色の鍋になります(笑)。

おすすめ資材

チューンアップ顆粒水和剤 100g 1,800円(税込)

野菜類、果樹類、水稻に登録があるBT殺虫剤。アオムシやヨトウムシなどの若齢幼虫に効果があります。何度でも使えてとても使いやすい! 家庭菜園の常備薬として活躍します。

定植は葉のつけ根が土に埋もれてしまわないように注意。

定植 1週間前

定植 2週間前

種を直まきする場合
ピンなどでくぼみを作ってまくと良い